

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和6年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	名古屋大学	整 理 番 号	2002
プログラム名称	ライフスタイル革命のための超学際移動イノベーション人材養成学位プログラム		
プログラム責任者	佐宗 章弘	プログラムコーディネーター	河口 信夫
1. 進捗状況概要 ・2024年度は6研究科から75名の学生が在籍し、女性も3割を占め、留学生比率も修士課程で2割、博士後期課程で約4割とバランスがよい。修士課程の応募倍率は毎年1.5倍を超え、優秀な学生のリクルートに成功している。学生の問題意識や参加意欲はきわめて高い。文理双方の学生が文理融合的な研究の魅力や難しさを各自の研究テーマや研究関心に即して内在的に理解している。研究科横断的な班活動も成功している。参加学生の多くが、学会等で表彰を受けるなど、具体的な成果を上げている。海外の大学との研究交流も熱心に取り組まれている。 ・アクティブ・ポイント管理システムの構築、アクティビティ・ツリーの明確化など、前回の現地視察報告書等の指摘事項に対する改善が見られる。 ・KPIの達成についても、論文投稿数を新たに加えるなど、改善の意欲がうかがえる。 【大学院教育全体の改革への取組状況】 ・未来社会創造機構のもとに、超学際人材育成室が新設され、集団指導・学修体制が構築されている。 ・東海エリアという産業集積地の特性を活かして、産学共創教育に意欲的に取り組んでいる。連携企業も多く、メンタリングなどで学生との接点を深めている。今後は連携企業からの委託事業や外部資金を着実に拡大していくことが課題であるとの説明があった。 2. 意見（改善を要する点、実施した助言等） ・各パーツの作り込みは優れているが、全体のビジョン、移動イノベーションが全体としてどのような新しい社会的価値の創造に貢献しうるのかという視点が弱い。仕上げの時期に差し掛かり、Redefine the Distance というミッション・ステートメントのもとで、どのような社会的価値の創出をめざすプログラムなのかという観点をより具体的に明確に打ち出す努力が求められる。 ・補助金終了後の TMI プロジェクトの継続のために、現在モビリティ社会研究所 (GREMO) と取組中の産学共創コンソーシアムとの組成は重要だと考える。学内でモビリティを追求する GREMO と TMI が有機的に連携し、さらなる社会的インパクトを出すことを期待する。			